

# ラフマニノフ ある愛の調べ

2008(平成20)年3月24日鑑賞<GAGA 試写室>

★★★★



監督・脚本=パーヴェル・ルンギン/出演=エヴゲニー・ツィガノフ/ヴィクトリア・トルストガノヴァ/ヴィクトリヤ・イサコヴァ/ミリアム・セホン/アレクセイ・コルトネフ/アレクセイ・ペトレンコ/イーゴリ・チェルニエヴィチ (ギャガ・コミュニケーションズ配給/2007年ロシア映画/96分)

……あの流れるような美しさと荘厳さを兼ね備えた『ピアノ協奏曲第2番』は、どんな状況下で生まれたのか……？ そんなラフマニノフファン必見の映画が誕生！ 3人の異なるタイプの女性との恋と別れの様子は新鮮！ 他方、1917年のロシア革命によって余儀なくされたアメリカへの亡命が彼に与えた苦悩は……？ それにしても、あの曲が28歳の時の作曲だったとは！

## オープニングはピアノ協奏曲第2番

ラフマニノフといえばピアノ協奏曲第2番。同じロシア生まれでも、チャイコフスキーのピアノ協奏曲第1番の無茶苦茶カッコいい出だしに比べれば、ラフマニノフの代表作であるピアノ協奏曲第2番は、何とも陰鬱な雰囲気が始まる荘厳な曲。

モーツァルトのピアノ協奏曲第21番の第2楽章が映画『みじかくも美しく燃え』(67年)に使われたのと同じように、ラフマニノフのピアノ協奏曲第2番は、名作『逢びき』(45年)やドラマ化された大ヒットコミック『のだめカンタービレ』(06年)で使われている。また、世界一難しい曲と言われているラフマニノフのピアノ協奏曲第3番は、『シャイン』(95年)で使われている。

そんなラフマニノフファンの期待に応えるかのように、この映画のオープニングはラフマニノフ自身が弾くピアノ協奏曲第2番。その場所はニューヨークのカーネギーホール。ロシア革命直後の1920年代に実現したニューヨークでの初コンサートだ。さあ、そこでみせるラフマニノフの神ワザは……？

## 🎬 ラフマニノフと3人の女性たち

音楽家の生涯を描いた映画はたくさんある。その最高傑作は何といってもモーツァルトのそれを描いた『アマデウス』(84年)だが、これは観ていて結構しんどい映画。

他方、著名な音楽家には恋がつきものだから、作曲家兼ピアニストとしての名声を社交界に鳴らしたフランツ・リストの音楽と彼の華やかな女性関係を描いた映画が『わが恋は終りぬ』(60年)。1873年4月1日にロシアの軽騎兵隊上級将校の息子として生まれたセルゲイ・ラフマニノフには、重要な3人の女性がいたらしい。他方、1917年に起きたロシア革命は必然的にロシアの人々、とりわけ才能ある芸術家たちに生き方の選択を迫ったが、そんな時代状況の中、ラフマニノフの選んだ生き方は……？ 私はこれまでLPレコードで何度も何度もラフマニノフの名曲を聴いていたが、彼がどんな厳しい時代状況の下、いかなる女性関係のもとで生きたのか、そしてあの名曲がいつ、どんな状況で生まれたのかについて全く知らなかったが、それがこの映画によって明らかに……。

## 🎬 最初の女性は、年上のアンナ！

私がこの映画を観てはじめて知ったのは、ラフマニノフの交響曲第1番が生まれたのは1897年、つまり彼が24歳の時であったということ。また、ペテルブルグで初演されたその交響曲第1番は、ラフマニノフが自分のすべてであると信じていた年上の女アンナ（ヴィクトリヤ・イサコヴァ）に捧げた曲だったということ。

ところが、その初演が指揮者の技術不足のため大失敗に終わり、酷評を受けたから大変。これによってラフマニノフとアンナとの恋は終わってしまい、彼は一夜にして恋と名声を両者共に失ってしまったわけだ。そう考えると、芸術の世界の厳しさは、21世紀初頭の今も、19世紀末の時代も全く同じ……？

## 🎬 2番目の女性は、従姉妹のナターシャ！

交響曲第1番の大失敗と、アンナとの失恋によって大きく傷ついたラフマニノフに対して救いの手を差しのべたのは、幼い頃に彼を慕っていた従姉妹のナターシャ（ヴィクトリア・トルストガノヴァ）。彼女は高名な医師ダール（イーゴリ・チェルニエヴィチ）と婚約中であつたにもかかわらず、ラフマニノフを支え続けると決めたらし



© 2007 THEMA PRODUCTION JSC © 2007  
VGTRK ALL RIGHTS RESERVED

失敗で落ち込んだラフマニノフを、3番目の女性マリアンナ（ミリアム・セホン）につなぐだけの役割となったわけだ。さて、この3番目の女性マリアンナとは……？

### 3番目の女性マリアンナとは？

ラフマニノフの3番目の女性マリアンナは、マルクス主義を信奉し、共産主義革命を夢みている女性。その主義、信条はラフマニノフのそれとは大きく異なっていたが、やはり若い女性の魅力は男にとって大きな活力を生み出すもの。

ラフマニノフが歴史に残る名曲ピアノ協奏曲第2番を完成させたのは、そんなマリアンナとの出会いによるものだったが、ここで意外なことは、ラフマニノフがマリアンナとの恋に落ちることなく、苦しい時に自分を見守り支えてくれた2番目の女性ナターシャの愛に気づき、彼女にプロポーズしたこと。このまま平穏な時代の中でナターシャと共に生き、次々と創作活動に従事できればいいのだが、激動する時代がそれを許さなかったから、ラフマニノフの人生は次のステップへ……。

### ロシア革命の影響は？

1917年のロシア革命が多くの音楽家に大きな影響を与えたのは当然。そして、共産主義に賛同できなかったラフマニノフがそんな激動の時代の中で人生最大の危機に陥ったのも当然。この映画はそんな緊迫感あふれる時代状況を浮かびあがらせているが、私の目には当のラフマニノフがそんな事態をどのように受けとめ、どのように苦悩しているのかがよくわからなかった。つまりラフマニノフの生き方は、筋が通って

い。ナターシャの依頼を受けてダール医師はラフマニノフに対して催眠療法を行ったが、この治療が効果を発揮し、心が解放されたラフマニノフは1901年にピアノ協奏曲第2番を完成させたとのこと。あの名曲は、何と彼が28歳の時に完成したわけだ。ところが、これによって彼がまた次の恋に走ったのは何とも皮肉。つまり、ナターシャは、交響曲第1番の

いるというよりも、周りの状況が全然見えず対応能力がないだけ、という感じ……？ 高校生の時に観た『ドクトル・ジバゴ』(65年)では、ロシア革命の中で翻弄される男の生きざまと恋の行方を堪能したが、この映画にみるラフマニノフはまるでわがままな駄々っ子のように……？ もっとも、そこはよくしたもので、そんなラフマニノフを救ったのが妻のナターシャの献身であり、共産党の幹部となっているマリアンナの複雑な気持の中での協力だった。つまり、ラフマニノフのアメリカ亡命の成功は、この2人の力によっているわけだ。

### 亡命後、10年間の苦悩は？

アメリカ亡命はマリアンナの協力によってきわどいところでやっと成功。そしてカーネギーホールでの初コンサートも大成功。これに気をよくした主催者のスタンウェイ(アレクセイ・コルトネフ)は、以降200日、100都市の全米ツアーを企画し、ラフマニノフは行く先々で大歓迎を受けた。しかし、そんなハードな演奏生活をラフマニノフが予想していたはずはなく、彼は次第にアメリカ的な生活への対応に苦悩するようになっていった。彼を悩ますポイントは2つ。第1は、やっと亡命できたにもかかわらず、なお断ちきれない祖国への望郷の思い。第2は、新しい旋律が湧きあがってこないことだった。そんなラフマニノフを励まし続けたのは妻のナターシャだが、さて彼の立ち直りは……？

### ライラックの花束は……？

この映画はドキュメンタリーではなく、芸術的観点からさまざまな脚色を施したものの。その象徴がライラックの花束だ。かつてロシアでラフマニノフがアンナに送ったのもライラックの花束だったが、今亡命先のアメリカで苦悩を続けているラフマニノフのもとにライラックの花束が届けられた。ところが、その送り主は不明。さて、一体誰が何のために……？ パーヴェル・ルンギン監督は、このライラックの花束を象徴として再びラフマニノフがナターシャや子供たちとの絆を取り戻し、作曲家として次のステップに進んでいく姿を描いていく。さて、再生ラフマニノフの頭の中に生まれてきた新しい旋律とは……？

2008(平成20)年3月25日記